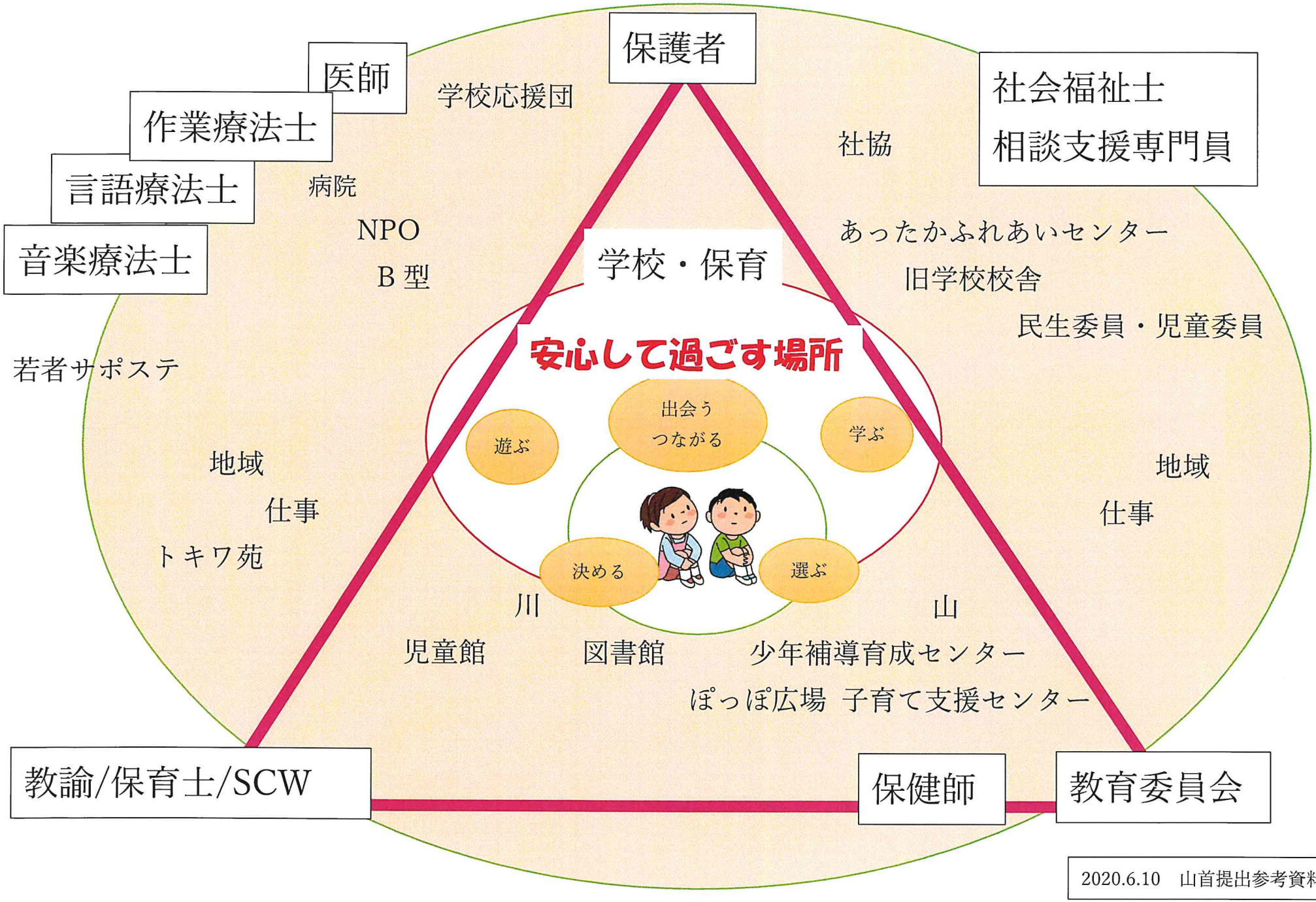

2020.6.10　山首提出参考資料

子どもたちは地域の「宝」
それぞれの育ちを共に喜び合える町に

土佐町で
想いを語り合おうこれからのことを話そう
報　告　書

【成　果】　「子どもたちは、一人一人の個性があり、素晴らしい可能性がある。
ゆっくりと成長する子、個性が強い子、一つの事がすごく得意な子、みんな違ってみんないい。
　この機会を通じて保護者・保健・福祉・医療・教育関係者とのより強い繋がりをつくっていきながら、子どもたちの成長を見守っていける場づくりについて考えていきたい」という目的でこの催しを実施した。
　保護者・医師・民生委員児童委員・保育士・議会議員・理学療法士・社会福祉士・音楽療法士・保健師など、あらゆる立場にある方々が一堂に会し、子どもたちの成長を応援していくにはどうしたらよいか考える機会となった。
　何より、登壇いただいた方の思いや活動内容を聞くことにより、勉強になったとの声が多かったことから、「子どもたちを取りまく人々の連携づくり」が重要であることが明確となってきた。古賀先生からは、このような場を継続的にもっていくことが大切との提言もあり、「安心して過ごせる場所」や「地域のつながりづくり」を進めていく力となった。

【日　　時】　2019年　7月　27日（土）　午後1時30分～

【会　　場】　高知県土佐郡土佐町田井１４８８番地
　　土佐町役場田井支所　（1階ホール・2階とんからりんの家）
【参加対象】　医療・保健・福祉・教育関係者・保護者
　　子どもたちの発達・教育や福祉に関心のある方
【参 加 者】　３５名　（県外７名　県内土佐町以外５名　土佐町２３名）
【参 加 費】　無料
【主　　催】　社会福祉法人厚敬会　特別養護老人ホーム　トキワ苑
【後　　援】　土佐町・土佐町教育委員会　社会福祉法人土佐町社会福祉協議会
【協　　力】　とんからりんの家
【申し込み】　社会福祉法人　土佐町社会福祉協議会　ボランティアセンター
　　郵便番号　781-3401
　　住　　所　高知県土佐郡土佐町土居206番地　土佐町保健福祉センター内
　　事 務 局　山首尚子（yamakubi　naoko）
　　電　　話　0887-82-1067　　ファックス：82-1069
　　メール　tosasameura@shirt.ocn.ne.jp

【日　程】
●13：00～受付
●13：30～挨拶　　トキワ苑施設長　川村龍象
●13：40～オリエンテーション　自己紹介など

●14：00～16：30　トークセッション

医療　14:00～

Ⅰ　診察室から見える子どもたち

✿古賀真紀子さん　早明浦病院小児科　医師

昭和57年　日本大学医学部　卒業
平成8年　医療法人十全会　理事長
みつば保育園　園医　　土佐町小中学校　校医

平成8年より早明浦病院で小児科医、地域の保健活動、園医学校医として勤務して来たが、現在に至るまで、発達障害の子供達と言うよりも、多くはそれとリンクすることも多いダウン症や知的障害のある子供達、脳性麻痺の子供達を長く診てきた。当時は発達障害という言葉は一般には聞かれず、落ち着きのない子、学習障害をきたす子供達はともすれば知的障害扱いを受けることさえあった。ここ数年で急激にこの方面の研究が進み、保育園、学校教育の場でも意識の変化や支援法の学習に熱心に取り組んでおられ、特別支援学級に山田養護学校の教諭が出向して来たことで、私自身も勉強させてもらい、この様な子供達の将来や就業についても考えさせられるきっかけとなった。しかし就業に比重を置くあまり、本当の子供達、家族の想いに添えて来たのか反省することも多々あり、改めて、その生涯に渡る支援とは何か考えさせられているこの頃である。
発達障害は古くて新しい分野であり、脳の前頭前野という感覚統合する部分に障害が有り、感覚の統合障害で、コミュニケーション障害であるなどの説もあるが、本当のところはまだ未解決で、アスペルガー症候群という言葉も自閉症スペクトラムに包括されるなど、その概念も刻々と変化していっている。

そんな中、昨年山首局長の方から発達障害の一療法としてニューヨークで実践されて来た鈴木琴榮氏を紹介して頂き、当院の各セラピストとタグを組み音楽療法が開始された。私自身、正直音楽療法はレクレーションの一つで、子供達の居場所になれば良いのか位の理解しかしていなかったが、開始直後から子供達と保護者等のみるみる変化に驚き、やっと言葉に代わるツールとして音を使い、会話や感情表現を行う事が理解でき、素晴らしい手法なのだと気付いて来た。しかしこれはあくまで鈴琴榮先生という得難い先生であったからであり、残念な事に、まだ日本では医療として認めてもらっておらず、当院でもリハビリとして通院してもらっているのが現状である。

発達障害は、社会性を求められる場では一つの生活困難となるが、私は障害としての扱いや、発達障害という言葉にも非常に抵抗がある。また早期発見、早期からの支援の介入の元、専門的で知識のある様々な子供達を取り巻く周囲の人々から問題ある子として提起して頂くが、親の理解のないまますぐに自閉症やアスペルガーと言った決めつけをするのはどうかと思っている。子供達の素晴らしい特性の一つに成長があり、ある時期を過ぎると急激に成長して落ち着いてくる子供達を沢山見ていると、本当に子供達の持つ潜在能力には驚異的なものがあると思う。勿論、各月齢の検診時に異常を感じる子供達は別として、問題になるのはその後更にその特性が強まり、親も何か違和感を感じたり、あらゆる場面で困り事が起こる様になってからでは遅いのだろうか？その時と言うのは社会性の出てくるべき3才時であったり、就学前であったりで十分だと思っている。

我が国の就学制度は、残念ながら就学時に問題を抱えた子供達を特別支援学級に入れるために、知的障害か情緒障害かに振り分けなければならない現状にあり、知的障害グループには教育内容も、加配のつけ方も手厚いらしく、学校の教諭はこの子達を知的障害に強く押したがるが、情緒面に優れていて、周囲に馴染めない子供達をすぐに知的障害に振り分けるこの制度にとても反発を感じる。もっと残念なのは、情緒障害の子供達に苦手部分を取り出して通級による指導が嶺北には無い事。そのため、特に学校現場ではどうしても診断をまず求めてくる事が多いが、私達が様子を見ましょうと言う言葉
には、育ちの経過を一緒に丁寧に観察しましょうという意味に受け止めて欲しく、こちらもどれ位の期間、どんな様子に注目しながら、何をすればいいのかを具体的に伝え、次の診察日を確認し、思う様な結果が出ない時は別の相談機関からの意見を聞く様にして行くべきだと思っている。

最近は大人の発達障害も多々問題になっており、幼少期から障害に気づき支援ができていれば、もっと上手く社会と付き合い、苦しまずに生きていけたのにという考え方もある。この様な人達は、知的能力は人一倍高く、社会的にも認められた方達が多いため、自分の特性を知り、前向きに社会と関われるなった人もいるが、中には自尊心がとても傷つき、引きこもり状態を続けていたり、痛ましい事件を引き起こす人もいる。

以上の事から大切な事は、専門的な知識や支援も必要だが、周囲の理解、特に最も関わりの深い両親、特にお母さんによるその子の持つ特性、個性への正しい理解と対応を学んでもらい、それを取り巻く周囲の人々も理解を深め、対応を生涯に渡り持続、継続して行く事だと考える。そのひとつが、顔の見える関係の作れる嶺北ならではの特性にあった就労施設の設置であり、実現できる事を強く望んでいる。

≪Q&A≫

（山首）保護者から相談を受けて悩ましい所は？

（古賀）
直接私の元に相談に来られるケースはそんなに多くは無く、ほとんどが検診時の保健婦さんや保母さんや学校関係者、他医療機関からの紹介などであって、
まずそれが本当に保護者の悩んでいる事であるのかどうか、周囲からの働きかけに対し両親が困って悩んでいるが、両親はもう少し見守りたいと思っている場合には積極的に誘導したり、支援の必要性を強く勧める事はまずしない。その時に、その子の行動や、本人のお困り事や両親のお困り事に詳しく耳を傾け、その時に試せるアドバイスを行い様子を見るように伝えたり、具体的に支援を求めている様ならリハビリや音楽療法を勧めてみてその子の変化を見守る様にしている。

（山首）藁をもすがる思いで先生に相談することもあろうかと想像するが？

（古賀）まずは保護者のサポートをしないといけない。お母さんが「こうなったのは私のせい」というのが一番よくない方向に行ってしまう。そこに問題があったわけではないということを示さなければならない。環境が変われば、環境が変わった相手の人を責めたりする方向がある。まずはよく話を聞いてあげる事、何を心配しているのかを聞いてあげることが重要。

（山首）このような場を続けていくことに
重要だと思うことは？

（古賀）さまざまな立場の方が集まる、
こういう場所があるということを
発信し続けること。
この地域で生涯生活できるよう
就労の場所を作ることが重要。

全てにおいて親の支援の必要性も
常々感じています。

Ⅱ　子どもたちの成長を支える音楽療法

✿　鈴木琴栄さん　全米・日本音楽療法学会認定音楽療法士

上智大学法学部国際関係法学科卒。

2004年ニューヨーク大学大学院音楽療法学科修士課程修了。

音楽療法とは、音楽を一方通行に聴かせ、そのリズムに合わせてもらうのではない。様々な障害や病のある人のニーズをくみ取って、その人の何かしらの反応を音楽によって引き出し、音楽の方からその人に寄り添っていくプロセスを音楽療法と呼ぶ。音楽には、聴いたり、歌ったり、演奏したりすることによって、身体的、心理的、社会的、そして脳の認知的機能にも様々な効果的な作用がある。音楽療法士として、音楽というツールを使い、その子がまず安心・安全を感じられる空間で言葉でも身体表現でも、とにかく自分が表現できる空間を作ってあげる事、そして、その自己表現の中で失敗するチャンスを与えてあげる、その子のもどかしさや楽器を弾きたいと手を伸ばす努力を含めて保証してあげると言うことを心掛けている。

音楽療法の現状は学会員が約6000人、認定音楽療法士が約3000人活躍しているが、大半の音楽療法がレクリエーションの域にとどまってしまっている。

歴史が浅いため、音楽療法士の質の底上げが課題である。

しかしながら、早明浦病院では音楽療法のプログラムを小児リハビリの一環として取り入れており、音楽療法室として子供たちが集える場所を医療の中に確保してくれたということは、全国に発信できるほど画期的であると言える。

人口が少ない中、この画期的な取り組みを進めている土佐町だからこそできる音楽療法があると感じている。

専門性をつなぐ網目をつくっていく人の存在が大切だと感じる。

保健　15:00～

Ⅲ　早期発見にむけた取組みと支援

✿　伊藤充恵さん　保健師

土佐町健康福祉課　健康係長

保健師とは、地域保健、産業保健の分野の中で、人と人とをつなぎ健康を保つことが主たる業務である。健康福祉課では、母子保健の分野で新生児訪問から、3才児健診までを医療機関、心理士、社協等と連携しながら行う。

健診時、発達のチェックを早期に行うためのマニュアルが高知県で作成され、どの市町村でも検査を行うようになった。我々も検査をしてカテゴライズすることに当初疑問を感じていたが、次の支援につなげるスタートでもあると認識している。問診でのやり取りで注目することは、子供の反応や、目が合うかどうか、母親の表情等様々なことを注視する。また、心理士や言語聴覚士と連携し、遊んでいる様子なども観察する。

高知県少子対策課による「おおきくなあれ」のコラムでは「発達の早い遅いは良い悪いではない」としている。子供は褒められて、自分ができたこと、親が喜んでくれたことをうれしく思う気持ちで、成長が前に進む。そのためには、乳幼児健診を受け、早期に子供の特徴を把握することが重要になる。個性お理解してもらえると自分らしく生活しやすい。

　仕事柄、「栄養のある食事を摂りましょう。」とか「早く寝ましょう。」と言わなければならない場合もあるが、みんなが楽しく子育てや生活ができるよう、土佐町で仕事ができればいいと思っている。

≪Q&A≫

（山首）育児をしていくうえで困りごとを多く抱えている親もいると思うが、制度などの情報提供をするにはなかなか難しいのか？

（伊藤）特性があったり、できなかったことがあった場合、その事実は伝える。すべての親が前向きに考えるわけではないが、できることはやりたいという親に対しては専門機関や相談先を紹介をする。

Ⅱ　役割のある居場所づくり障害者支援の現場から

✿山﨑泰介さん　　認定社会福祉士

市川市社会福祉協議会 事務局次長
市川市自立支援協議会 会長
精神科病院ソーシャルワーカーを経て現職。
専門職後見人としても活動中

✿岩城貞時さん　社会福祉士

社会福祉法人三好やまなみ会　理事・施設長
三好市地域自立支援協議会　会長、
三好市・東みよし町障害者虐待防止ネットワーク運営委員会　会長

≪山﨑泰介氏≫

ソーシャルワーカーとはなんなのか？私は「困っている人に対し、困らないような手助けをする人」と考えている。ただし、「制度、仕組みがあるからそれに合わせる」というのではなく、「周りの人に変わってもらうように働きかける」ことがソーシャルワーカーの役割だと思っている。つまり周りの人にその人を受け入れてもらったり、その人が暮らしやすくなるように受け止めてもらうよう、仲介者になるのがソーシャルワーカーだと考えている。自立支援協議会をしていくうえで、障害のある人の行き場はもちろん必要であるが、本当に考えないといけないのは保護者や周囲の人である。認知症を軸に考えると、認知症になっても大丈夫なようにすること、なったときにどうするか準備しておくこと。この２つをしておかないと、残される障害を持つ人は大変な困難にさらされることになる。だからこそ専門職は両親に認知症になった場合の準備の必要性を伝えていかなければならない。私は当事者の人も家族の人も専門職も周囲の人も、自分の役割がある。そこから少しはみ出る努力が必要だと思う。ちょっとはみ出ていかないと、新しい制度や仕組みは作れないと思う。必要だから作って世の中に認められてその後制度になる。それを忘れてはいけない。制度があってサービスが生まれるのではなく、必要なサービス、困りごとがあってサービスが生まれ、それがいいものだったら後から制度になる。それを忘れてしまうと専門職も当事者も行政も行き詰ってしまうのではないかと考える。

最後に、専門職の皆さんはまず自分は専門職である。専門職の前に付くのは‘‘どこそこ‘‘の専門職である。でもその前にそれぞれの地域で生きる人間である。だから何か判断に迷ったら自分が所属しているところだけに縛られるのではなく、本当はどうするのが一番いいかを専門職も考えてほしい。

２つ目に保護者の皆さん、これから自分の子供を育てたりだとか、周りのお子さんと手を携えたりしたときに、挫けそうになる時が多々あると思う。「この子たちだって地域社会で生きてこそである。それはそこにいる子供たちが証明している。」挫けそうになったら自分の子供、仲間の子供、地域の子供の顔を思い出して、あきらめないで頑張っていただきたい。

≪岩城貞時氏≫

私は「社会福祉法人三好やまなみ会」という精神障害者の地域生活を支援する法人でソーシャルワーカーをしている。また、地域では自立支援協議会などの協議会の運営のほか、保護司、消防団、防犯パトロールなど２１の役割を担っている。

行っている事業の中で人とのつながりを具現化出来たと感じられる事例を一つ紹介したい。三好やまなみ会も絡み、引きこもりの当事者の人たちが相談援助をやっている「NPO法人三好サポート協会ぴあぞら」を立ち上げた。引きこもりの当事者や親、特に当事者は相談する場がなかなか無い。また、相談支援専門員が介入しても支援が難しい場合も多々ある。当事者の気持ちがわかり共感できるのは当事者を経験した人であるので、効果は非常に大きかった。

私が言いたいことは、地域における様々な役割を知り、様々な役割を本職の場でも使い、何かあったらつながろうと思うこと、試みることが必要であると感じる。自分が本業を終えた後のプライベートな時間をどのようにパブリック“新しい公共”として活用できる役割は、どんなものがあるか、それをどんなところで役立てられるのかを常に考えながら、自分が生かせる地域の役割を探し続ける必要があると感じる。それが自分の生きがい、地域貢献につながり、新しい制度を生むためのつながりになると思う。

✿田岡香織さん　相談支援専門員

社会福祉法人本山育成会　しゃくなげ荘　地域相談支援センター　相談支援専門員

相談員の業務として付随してくるものに「自立支援協議会」がある。地域の課題を挙げ、困難事例を共有する。それを共有し、解決に向けた会を行う場が「相談支援部会」である。ただしこれは困難事例を数多く出せば良いというものではなく、解決に向け協議を重ねていく事が重要である。嶺北地区では４町村からなる自立支援協議会がある。なかなか足並みが揃わないこともあったが、見えてくるものはあった。その中で我々に出来ることは何があるかと考えたとき、障害があったり、生きづらさを感じている人が、気軽に立ち寄ることのできる「集い」がないのではないかと課題点が挙がった。

嶺北地区には地域活動支援センターのような場所がなく、在宅で生活している人で、外に出づらい、生きづらい、つながりがない人が多いのも現実である。そんな中私が勤務している本山町では、グループホームの利用者の外出先がなかったり、親が高齢化した利用者が定期的に自宅へ帰ることが出来ない利用者等の課題があった。利用者だけではなく、その両親がこちらに来てゆっくりできる場所の必要性も感じた。その場所として、喫茶店の空き店舗を借りて障害者の働く事業所も兼ねた「カフェレストしゃくなげ」の営業を開始した。私は箱モノを作る必要性はないと考えている。

例えば各事業所で活発的なところと連携し、そういうところにも通える場所があれば良いのではないだろうか。新しいものを作ればそれだけコストもかかる。再度地域で何が出来るかという事を見つめることが行政と我々の仕事であると考えている。

✿フロアからの発表

●音楽療法に取り組んでいる方「音楽療法ビデオを視聴・マリンバを即興で演奏する男子」
私は、「場」が大切だと思う。
言葉で表現することが苦手な子は、怒りや感情を音で表現することができるのです。
彼は、何でも叩くことをする子で、親も絶望的だと困っていました
彼は表現しています。そして音楽療法を通じて、親も救われている。
大切なことは、それぞれの立場でみれる場が重要だということではないだろうか。
一人では見きれないが、其々の専門家の目がいる。保育士は保育士の視点である。
保育士が彼の特性を見抜くことは難しかったが沢山のプロに囲まれて、その子の特性の見方を学んできた。多角的に見る目を育てるのがこの「場」であると感じている。それぞれの視点を合わせてみて言うことが重要であり、土佐町という町では、保育、地域、学校、あらゆるところからの視点をまとめられる「場」が必要だと思う。

✿参加者からの感想

●保育士という仕事をしていて、力がない自分を情けなく感じることが多々あります。担任させてもらった子供が園にいる間一生懸命やっていたのですが、反省ばかりです。今、考えている事の一つに園児が色々な人と出会うことができないか！です。少しハンディキャップがある方が、保育でお仕事をしてくれることが出来たらとか、考えています。　トキワ苑は、私がきっと、将来お世話になる施設なので、意見もいっぱい言っておきたいです。そのためにお手伝いは何でもします。

●古賀先生が医療の現場からこのことを語ってくれることがすばらしい。これができるところは少ないです。　障害とか特性とか、スペクトラムとか言う言葉ではなく、医療も、福祉も、「目の前にいる子ども」をありのままでみて専門支援ができるといいですね。

●保育士さんや、保健師さんや福祉の人などそれぞれに頑張ってくれているけれど、その子が本当にここで生きていいのか、生きられるのかについては誰も語っていないのが現状。やはりまだまだつながりが大切ですね。

●ソーシャルワーカーとは、　山崎さんがおっしゃったとおり、今目の前にいる方が困っていたら、少しでも困らないように一緒に考える者だと思っています。素敵なお客様のお話を聞いて有り難いです。　トキワ苑様有難うございました。

●人を繋げる会は、誰かが繋げていなければ出来ない会だと思いました。　この地で生まれ、育ち、暮らし、死ぬ、これを目指す人間観がとても・・・・

●他職種の地元の方が一堂に　集って子供について考える意義深い一歩になったと思う。社会的ニーズをくみとって仕組みや人とのつながりを充足させていく取り組みを継続していく事が必要だなと改めて実感しました。　第二弾もやりましょう！

●わが町は行政レベルでは子どもたちに付する支援に力を入れているが、町村単位はまだこれからであることを感じる。　私が土佐町に来る目的は、社協という名前は知っているが、何をしてい売るのか、何をしてくれるのか　行政ｙさ民間だけではできない、無いなら作っていく事を　どのような展開で継続していく事についてがテーマであり、今回は、ちょうど、自分の子どもの事もあり、参加させていただきました。社協は全て社協が主体的に行うことではなく、お互いの強みを引き出して、つなげていく事（コーディネート力）が社協かなと思います。期間相談センターができていますが、連携はできていいないです。

●障害のある方、その方を支える方の課題は、町の規模にあまり左右されないと思いました。　それを解消するために法人（トキワ）さんが積極的に乗り出してくれることに心強さを感じました。　羨ましく思いました。　有難うございました。

●今回、この場を設けて下さり、本当に感謝しております。有難うございました。　子どもたちに関わる仕事をする中で、一般で言われる職域を少しはみ出しているように感じていましたが、必要なのだから間違っていないと改めて思いました。これからもっと、勢いづいて動いていきたいと思います。

●今日はすばらしい場を提供して下さり、有難うございました。「場をつくる」「つながりをつくる」「仕事と遊びの中間の字かにゃ立場を第二にする」たくさんのメッセージがありました。　立場が全く違う人とのつながりもそれですね、この会を次につなげていくために集える場があるといいなと思います。

●鈴木先生にご案内いただいて、参加させていただきました。　色々数々の学びをさせていただきましたが、教員や音楽療法士としての自分である以前に、一人の人間としての自分の生き方、人生をみつめる良いきっかけになったような気がしました。 少し仕事をはみだして、人と繋がりたいと思いました。

●子どもたちの発達障害の話があるという事で来ました。私たちの時代には、聞いた事がなかったです。今回のお話を聞いて今まであまり知らなかった事が多々あり、すごく勉強になりました。音楽療法も初めてだったので大変良かったです。これからもこの様な企画があれば参加したいと思います。有難うございました。

●改めて、土佐町の子どもに関わる者がこういった場に集まることがなかったなあと思いました。それぞれの力があり、活動していますがやはり「つながり」の部分なのかなあと感じました。　山崎さんの「職よりちょっとはみ出ることが大事になるのではと言われたその　勇気が必要という事を自分に問います。　たくさんのお話が聴けたことが良かったです。そして楽しく参加できました。有難うございました。（参加できた私にも有難う）

●土佐町は、顔の見える関係が出来ていて、羨ましいです。大都市はそこからやらないといけません。小さな町にはかなわないです。土佐町に繋いでもらった御縁を大切に子どもたちが今ここに「いる」ことを認めて育ちを支えることに力を尽くしていきたいです。有難うございました。

●日本はみんな同じじゃないといけないようなところがあると思います。一人ひとり、ありのままを受け入れてもらえる世の中になったら、最高だと思います。皆が良く発達障害を理解し、子供への体をウしてくれる社会んあれば、いろんな事件も減るように思います。　発達障害について大きく取り上げられるようになったのは、１５から２０年前からのように感じますが、昔もいて、『あの子はしわい』とか『かわっちゅう』で片づけられてきたのではないかと感じます。　親が、うちの子は、発達障害ですと胸をはって言える日本になるといいと思います。

●学校・保育・保健・福祉・医療・すべて専門職といわれますが、障害のある子どもたちに対して、具体的に何をどのように支援してくれているのか私たちは知りません。もっと勉強する場がいりますね。保護者は知っているのでしょうか。
●今日は有難うございました。音楽療法がトキワ苑のお世話で出来ているということをはじめて知りました。障害をもっている家族にとってはとても救われることだと思いました。続いていけますように、予算があるようでしたら核家族だったり、祖父母も働いていたりで、病後児保育の希望があるのですが、実現しません。考えて見てほしいと思います。
●感動的な催しでした。土佐町はすばらしい町ですね　素晴らしい人たちに会えました。
●児童の早期療育から、つながる福祉、もっと市川市の山崎さんのお話が聴きたかった。
●嶺北は、とても熱い想いをもった専門性の高い人たちがいて素晴らしいと思いました。皆さんでしたら必ず繋がることができると思います。心から応援したいと思いました。
●沢山の繋がりを感じた会でした。この気付きを日々に活かしていきたいです有難うございました。

●様々な取り組み、思いを一度に聞くことが出来ました。人と人とが繋がり集えるようなしくみ実現できるとよいです。　山首さんコーディネート有難うございました。

●しゃくなげさんの取組み、すばらしいです。その人のために、その人が居られる場所をつくっていく。こういったことをつくりだしていく方がいるってことがすばらしい。
田岡さんがおっしゃった「何ができるのか見つめて行くことが大切」というその言葉がとても良かった。
●JR 博士を土佐町の　森の集いに呼びたいな。

●専門性の高さに感動、繋がろう力！応援します。　山首さんつなげ方　流石！
社会福祉士使ってくださいね！

●山崎さんの言葉に力がありました。　私たちには今と昔があるように、今があり、未来があると感じました。頑張ります有難う。

●トキワ苑の方々にとっては、未知の領域であり、この取組をしようと決断くださったことに感謝します。

●土佐町に何が必要なのか、まだまだこういった場をつくって話し合いをすすめていかなければなりませんね。

教育支援センターあり方検討委員会　6月10日（水）１８：３０～

（参考：東京都狛江市教育支援センター・京都市「ふれあいの杜」・三重不登校支援ネットワーク・佐賀県教育支援センター「しいの木」）

【教育支援センターとは】

０歳から２２（２５）歳までの発達面、行動面、学校生活面、家庭生活面において支援を必要とする子どもや、子どもの育ちについて不安がある保護者に総合的な相談を受けて対応したり、具体的な支援をする機関（不登校相談・発達障害等の相談・学校でのトラブル・非行・ネットトラブル等）であってほしい。

福祉と教育の連携による、切れ目のない支援を行う。目指すは不登校の子どもも生き生きと生活できるようになるための支援を行う。引きこもり生活者を無くして、将来の生活保護対象者から、労働者として納税者となるための転換を図る。そのための多様な専門職による支援「サポートチーム」（保健師・SC・SSW・社教関係者・福祉関係者・学校関係者・心理士・医療関係者等）ができ、専門機関との連携（要対協・児童相談所・心の教育センター・特別支援学校・巡回相談・適応指導教室・言語療法士）を積極的にかつ迅速に図ることができる機関であってほしい。

※子育てのできない保護者への対応ができる機関である必要もある。保護者対応が難しい現状がある。

保護者が子どものまま。愛情のかけ方関わり方がわからない。虐待・ネグレクト

◎教育相談が受けられる（TEL 相談を含む）

臨床心理士の対応　発達・言葉の相談（言語療法士）・教育相談員（元教員）・SSW・SC

◎民生児童委員との関りが持てる（幼少期からの関わり・保護者とのつながり・学校や社教との連携）

◎就労支援・指導ができる　就業サポートステーション

社教・福祉・産業振興課の関わり　働く場の提供（事業所・作業所・農家・畜産・林業・店舗等）とフォロー

◎チャレンジスクール　可能性を発見し、伸ばす。豊かな人間性（社会性やコミュニケーション能力）の向上

体験活動・ボランティア活動・就労活動・スポーツ活動・文化活動・地域との交流活動等の実施

【場所】：森小学校内　事務局（教育委員会）センター長（教育次長 OR 担当職員）

担当する子どもや保護者が通いやすい場（旧小学校）を活動場所とする。（臨機応変）

※土佐町の教育支援センターは場所（施設）より、関係機関が連携して臨機応変に対応することができる組織（日高村のような組織）になることが望ましいと考える。相談できる場所は森小学校内が良いのではないかと考える。